



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)サーバス八幡二丁目	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5	ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5	ふつつ		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5	ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5	がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①断熱性能を5等級とし、外皮性能に配慮。 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑥敷地内には積極的に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦LED照明設備の採用や適切な断熱材を施し、外皮の熱負荷抑制に努めた。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑬有害物質を含まない材料を使用するように努めた。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2.2 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.3 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.6 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>3 3.1 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3.2 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>			
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑶敷地内には積極的に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑶持続可能な森林から産出された木材/⑶温熱環境悪化の改善)</p>	<p>Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑶ まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑶ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑶ 温熱環境悪化の改善</p>			

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サーバス八幡二丁目	階数	地上10F
建設地	静岡県静岡市駿河区八幡二丁目6番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	146 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年3月1日
敷地面積	1,631 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社六吹工務店東京一級建築
建築面積	714 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,041 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.1  
Q1 室内環境: 3.5  
Q3 室外環境(敷地内): 2.4  
LR1 エネルギー: 4.4  
LR2 資源・マテリアル: 2.8  
LR3 敷地外環境: 2.8

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。 住宅性能評価で断熱等性能5等級、一次エネルギー消費量6等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。 また、道路境界に於ける植栽など良好な緑地環境にも配慮している。		
<b>Q1 室内環境</b> 断熱性能を5等級とし、外皮性能に配慮。 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮。	<b>Q2 サービス性能</b> 躯体は劣化対策等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を使用し、建物の長寿命化に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内には積極的に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明設備の採用や適切な断熱材を施し、外皮の熱負荷抑制に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない材料を使用するように努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 適切な駐車場台数の確保を行い、交通負荷抑制に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される